

【本例はあくまでも一つの記入例であるので、各自のものを記入すること。】

(記入例)

事業計画書及び収支見積書

別紙2 (解体業)

○年○月○日 現在作成

1-1. 事業の全体計画(業務を行う時間、従業員数、休業日、扱う車種(乗用車、大型車)を含む。)

<p>引取業者及びフロン類回収業者(〇〇商会 等)から引取りを行った使用済自動車(乗用車及び大型車)を解体し、有用部品(エンジン、ドア、バンパー等)を回収し、中古部品業者及び金属商等に売却する。 解体作業に伴い発生した産業廃棄物については産業廃棄物処分業者に委託し処分する。 解体自動車については、〇〇(破砕業者)に引渡しを行う。 各作業時間等は別添フローのとおり。</p>					
(フロー概略図を添付)					
業務時間	9:00~17:00	従業員数	3人	休業日	日曜日・祝祭日

1-2. 使用済自動車等の引取実績及び計画

年 度	— 年度実績 (3年前)	<u>19</u> 年度実績 (2年前)	<u>20</u> 年度実績 (1年前)	許可取得後の年間計画
引取台数	300台	250台	120台	350台
主な取引先	○×販売(株) ○○自工(株)	○×販売(株) ○○自工(株)	○×販売(株) ○○自工(株)	○×販売(株) ○○自工(株)

1-3. 解体実績

年 度	— 年度実績 (3年前)	<u>19</u> 年度実績 (2年前)	<u>20</u> 年度実績 (1年前)
年間処理実績	300台	250台	120台
年間稼働日数	280日	280日	280日
平均処理実績	1.1台/日	0.9台/日	0.4台/日

【本例はあくまでも一つの記入例であるので、各自のものを記入すること。】

(記入例)

1-4. 解体能力

1日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
10台/日	280日	2800台

1-5. 保管の状況

使用済自動車		解体自動車	
保管量の上限	50台 (0台)	保管量の上限	50台 (0台)
現在保管量	30台 (0台)	現在保管量	30台 (0台)

※事業所以外の場所で保管している場合は、その台数を内数で()に記入すること。

1-6. 年間収支見積書

○年○月○日 現在作成

項目		前年度(20年) (決算月(3月))		今年度の見込み (決算月(3月))	
		年度 (千円)	(1台当) (円)	年度 (千円)	(1台当) (円)
売上高(全体)	ア(総売上収入)	3,000	25,000	8,700	24,857
売上原価	イ(使用済自動車等購入費)	750	6,250	2,175	6,214
その他の経費	ウ	900	7,500	2,610	7,457
	うち廃棄物処理委託費 エ	750	6,250	2,175	6,214
営業利益	オ=ア-イ-ウ	1,350	11,250	3,915	11,186
営業外損益	カ(主に支払利息(注))	-40	-333	-116	-331
経常利益	キ=オ+カ	1,310	10,917	3,799	10,854
使用済自動車等年間引取台数		120		350	
使用済自動車等年間処理台数		120		350	

(参考)

	前年度末	現在
負債総額(年度末残高) (千円)	7,500	6,000

(注)1 「1台当」額は、売上原価は引取台数で、その他は処理台数で割ること。

2 支払利息のみの場合又は支払利息が受取利息より多い場合はマイナスで計上すること。